

平成 31 年度使用高等学校
(第 1 部)
教科書編集趣意書
芸術 (美術 I) 編

目次

	ページ
116 日文 高校美術 1	1
116 日文 Art and You 創造の世界へ.....	3

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
116 日 文	美 302	高校美術 1 代表著作者 原 研哉 近藤幸夫

1．編集の基本方針及び編集上特に留意した点又は特色

本教科書は教育基本法及び高等学校学習指導要領に則り、「美術 I」の学習を通して、生徒の美的体験を豊かにし、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、生涯にわたって美術を愛好する心情を育てるという目標にそって、適切な題材を選ぶとともに、内容の充実を図り、美術作品の鑑賞にふさわしい印刷に気を配るなど、魅力ある教科書となるよう編集に努めました。また、生徒が意欲を持って授業に取り組めるように、基礎・基本を大切にしつつ、新しい感性を積極的に取り入れ、今日的な内容を持った教科書となるようさまざまな工夫を試みました。

美術の授業において教科書は多面的な役割が求められます。本教科書は、鑑賞の学習では世界各地の優れた作品を集めた美術館の役割を果たし、表現の学習では創作のアイデアやヒントを与えてくれるよき相談者となり、また適切に制作技法を教えてくれる優れた教師となる、かけがえの無い役割を果たしてくれるものと確信しています。

本教科書を編集するに当たって、特に留意した事項は以下の通りです。

<p>■美術の学習を通して、公共心や道徳心を育成する。基礎的・基本的事項がしっかりと身に付くようにする。我が国の伝統文化を尊重する態度が身に付くようにする。など、教育基本法や学習指導要領で求められている事項が適切に生かされるよう、題材を工夫する。</p>
<p>■教科書全体から、表現する楽しさや鑑賞する喜びが感じ取れ、生徒が生涯にわたって美術を愛好するための素地を育成できるよう、美術の教科書としての美しさ、使いやすさに配慮し、図版の視認性や文字の可読性を高めるなど、カラーユニバーサルデザインにも配慮する。</p>
<p>■美術の豊かさが感じ取れるように、絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現、建築、ファッション、漫画など幅広い領域を取り上げる。</p>

2．教科書の編成，教科書内容の組織，配列

本教科書を編成するにあたっては、表現と鑑賞、及び表現の各分野のバランスを考えて題材を設定するとともに、掲載する作品が特定の時代や地域に偏ること無く、全体として公正な美術の全体像が把握できるように配慮しました。また、表現と鑑賞の領域は相互的な関係にあることを考慮し、表現を追求することによって鑑賞が深まり、鑑賞が深まることによって新たな表現の可能性が生まれるような関係を重視して題材の配列を工夫しました。

題材の設定では、内容が抽象的、観念的にならないよう心がけ、わかりやすく具体的に示せるよ

うに配慮しました。配列は比較的平易なものから応用的発展的になるようにし、本文以外に必要な応じて解説文を付したり、図を用いて説明したりして、生徒が理解しやすい工夫をしています。鑑賞題材では、A4ワイド判を生かした大判図版を掲載し、興味を持って学べるようにしました。

本教科書の編成や組織配列で特に意を注いだところは以下の通りです。

■巻頭のオリエンテーションでは、紀元前の石器と今日の携帯端末、モネの「睡蓮」と長谷川等伯の「松林図屏風」を対比的に示し、用途と美、過去と現在、西洋と東洋などさまざまな観点から美術について考える題材を設け、生徒の創造力の育成が図られるようにした。
■造形表現の基礎となる素描や色彩の題材を設け、確実に基礎的能力が身に付くようにした。
■巻末には美術史とデザイン史の解説を記すとともに、絵画・彫刻から建築、デザイン、映像メディア表現まで幅広い分野を扱った美術史年表を載せ、日本及び世界の美術の全体像が一望できるようにした。

3. 教育基本法や学習指導要領との対応

教育基本法第2条（教育の目標）に新たに規定された内容と本教科書の対応は以下の通りです。

能力を伸ばし、創造性を培うことについて 生徒が美術に興味や関心を持ち、自ら意欲的に学習に取り組むよう各題材で工夫を試みた。
職業との関連を重視する。公共の精神、社会の形成に参画する態度を養うことについて 障害を持つ人たちに配慮した内容を設け、美術が積極的に社会の形成にかかわることを示した。
生命や自然を尊重し、環境を保全することについて オリエンテーションをはじめ、複数の題材で自然の美しさや生命のすばらしさを感じ取れるようにするとともに、美しい自然と芸術作品との出会いによるアートプロジェクトとして瀬戸内国際芸術祭を取り上げ、美術と環境との関係の大切さを訴えた。
伝統と文化の尊重、国際社会の平和と発展に寄与することについて 我が国の古典的な作品を積極的に取り上げ、そのよさを感じ取れるようにした。また、運慶とミケランジェロの作品の対比など、それぞれの作品のよさや特徴、表現の違いなどを理解し、異なる文化を尊重する態度の育成を図った。

学習指導要領における「改訂の基本的な考え方」と本教科書との対応は以下の通りです。

基礎的・基本的な知識・技能の習得の重視について 素描、色彩など基礎的題材とともに、構図や視点、透視図、版画の種類、彫刻技法、配色、レタリングなどの基本的事項が習得できるように丁寧に説明した。また、アクリル絵の具や油絵の具などの描画材について、その性質や特徴などを詳しく解説し、生徒が無理なく授業に取り組めるよう配慮した。
思考力、判断力、表現力等の育成の重視について 各題材において、生徒自らが考え、判断し、積極的に活動に取り組む姿勢を育めるように努めた。
道徳教育などの充実によって豊かな心を育成することについて 人間への関心を高める題材や他者への愛情などをテーマにした題材、障害を持つ人のためのデザインなどを取り上げ、美術の学習を通して道徳的精神が涵養できるよう配慮した。

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
116 日 文	美 303	Art and You 創造の世界へ 著作者 小澤基弘 高須賀昌志

1．編集の基本方針及び編集上特に留意した点又は特色

本教科書は教育基本法第1条教育の目的及び第2条教育の目標に則り、「高等学校学習指導要領第1章 総則」, 及び「第2章 第7節 芸術 第4 美術Ⅰ」に示された目標を踏まえて編集しました。なかでも特に「生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる」に配慮し、何よりもまず生徒が生涯を通して身近に置いて常に手に取り、美術を愛好する心情が育つ教科書、美術という創造活動が放つダイナミズムが赤裸々に生徒に伝わるような教科書づくりを目指しました。

美術とは創造の一つの現れであり、それは表現や鑑賞という枠に留まらず、自己理解はもちろんのこと、他者や社会に深く共感し理解を深め、「生きる力」を育てる術であると考えます。本教科書はこの視座を重視し、まず美術を広く創造として捉え、創造の仕組み、つまり創造の萌芽、展開、作品への結実という一連の流れを、教科書構成の基軸としました。具体的には本書を、第1章「創造の扉」、第2章「創造の道程」、第3章「創造の結実」の3章構成とすることで一貫したストーリーを構築し、美術とは何か、創造とは何かについて、生徒が教科書のページを繰るにつれて実感を持って主体的に理解できるよう工夫をしています。

2．教科書の編成，教科書内容の組織，配列

上記1. で示した教科書づくりを目指すため、具体的には下記のように編成，組織や配列を工夫しました。

美術の創造の仕組みを把握する

まず「見つめる 感じる 考える」こと、広い意味での観察が創造の始点となることを示し、次いで創造のプロセスにおける試行錯誤による新たな気付きについて重点的に取り上げた。

生徒が積極的に創造活動に取り組むモチベーションを高める

作家の言葉やアイデアスケッチ等を豊富に掲載し、生徒自身が主体的に美術とは何か、創造とは何かを理解して、積極的に創造活動に取り組めるよう、内容に工夫と配慮をした。

自己を見つめ、世界観を広げる

美術表現の重要な要素として、自分自身を見つめ、理解しようとする内的欲求がある。自己の内面、ものごとの本質を深く見つめる姿勢を養う手掛かりを生徒が自ら把握できるよう、編成を工夫した。また、自己の世界から他者、社会そして自然へと視野を拡大させ、それらと共感し積極的にかかわり合える美術表現を取り上げ、表現や鑑賞を通して公共心や道徳心も育成できるよう、内容を工夫した。

<p>美術の全体像を偏りなく把握する</p> <p>絵画・彫刻，デザイン，映像メディア表現のそれぞれのバランス，作品の時代や地域を考慮し，美術の全体像を偏りなく把握できるように配慮した。また，現代の美術に見られる，新たな意味や価値を示す複合的な表現についても，積極的に取り上げた。</p>
<p>基礎・基本の重視と広がり</p> <p>美術の基礎・基本を重視し，生徒自らが新しい意味や価値をつくりだす表現や鑑賞の能力を獲得できるよう，表現活動の複数分野の融合や，鑑賞の活動を幅広く扱えるように工夫をした。</p>
<p>日常生活に生きる美術の考え方を提示</p> <p>日常使用する用具の機能と美しさ，生活の改善，ユニバーサルデザインの取り組みなども紹介し，社会における美術の役割や責任，日常生活との深いかかわりについて理解する内容を提示した。</p>
<p>自然との共生，我が国の伝統文化</p> <p>自然と人間との共生，環境形成に果たす美術の役割について理解を深め，自然と深く結びついている日本人の美意識について理解し，我が国の伝統文化を尊重できるように題材を設定した。巻末の資料では，日本の美術の流れを東洋及び世界の美術と共に理解できるよう，配列を工夫した。</p>
<p>美術の教科書としての美しさや使いやすさを追求</p> <p>品格のある美しいレイアウト，新鮮で見やすい造本にするよう心掛け，生徒が常に携帯し，いつでも開くことができるようコンパクトなB5ワイド判の造本とした。また豊富なページ数による題材の充実，良質の原稿を使用した美しい作品，わかりやすく過不足のない本文と作品解説文などにも配慮し，生徒が題材への共感を得やすいように生徒作品も掲載した。巻末には「色彩の基礎」，「文字の基礎」，「日本美術」，「東洋美術」，「西洋美術」，「20世紀美術」など豊富な資料を掲載し，美術の理解に必要な基本的な知識を得られるよう工夫した。</p>
<p>C.U.D.(カラーユニバーサルデザイン)の配慮</p> <p>地色の上に文字や作品を配することを極力避け，文字の可読性，作品の視認性を高めた。</p>

3. 教育基本法や学習指導要領との対応

教育基本法第1章第1～3条を熟慮し，生徒の人的成長を第一義に考え，題材を厳選し，掲載作品を精選して一貫性のある質の高い教科書を目指しました。第2条との対応は下記のとおりです。

第1号	美術の創造の仕組みを理解し，創造のプロセスを実感できるようにした。
第2号	創造の端緒を「見つめる 感じる 考える」とし，それらを生徒が自律的に培えるようにした。美術と生活との関連を重視し，生活や社会の中で機能する美術について学べるようにした。
第3号	自己理解や他者理解，他者への敬愛や共感を育めるよう題材の選定と配慮を工夫した。取り上げる作家については，男女のバランス，日本人とそれ以外のバランスに配慮した。
第4号	生命への愛情，自然や環境への配慮について，美術を通して学べるよう題材の選定に配慮した。
第5号	我が国の文化や古典作品を積極的に取り上げ，そのよさや美しさが理解でき，伝統と文化を尊重する態度が養われるよう内容を工夫した。